

ブロードバンドからユビキタスアクセスまでをカバーする
次世代高速 コンテンツセキュリティアプライアンス
『WirelessEdge BeSecure』を日本市場で独占販売開始

ネットワークセキュリティ処理で一番負荷のかかる
アンチウイルス処理の高速化を実現
共同特許出願中

ネットワークセキュリティ製品の販売およびインテグレーションを行う図研ネットウエイブ株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表取締役社長：中村郁生、以下図研ネットウエイブ）と統合先端データサービス製品の開発ベンダーであり、ソリューションプロバイダーでもある WirelessEdge Canada, Inc.（本社：カナダ・アルバータ州カルガリー、CEO：フィリップ・ジー、以下 WEC）は本日、図研ネットウエイブが WEC の安定かつ高性能な次世代高速 コンテンツセキュリティアプライアンス『WirelessEdge BeSecure』の日本市場における独占販売を開始する契約を締結することで両社が合意に達したと発表しました。

また、図研ネットウエイブは、次世代高速コンテンツセキュリティアプライアンス『WirelessEdge BeSecure』の販売パートナーの募集を開始したことを併せて発表しました。

● 『WirelessEdge BeSecure』とは



『WirelessEdge BeSecure』は、ネットワークセキュリティ処理で一番負荷のかかるアンチウイルス処理の高速化、ネットワークベースのコンテンツ全般を対象とした処理高速化を実現します。処理の高速化を実現する手法『Subsonic 技術（弊社と共同特許申請中）』は、コンテンツ処理におけるスループット特異点を回避し、検査結果を一定時間ネットワーク上で共有できる仕組みを揃えています。一度実施したアンチウイルス検査結果情報を、ネットワーク上で共有することにより、毎回検査をする必要がなくなり、これにより最も負荷のかかるアンチウイルス処理の高速化を実現します。

『WirelessEdge BeSecure』は、アンチウイルスのみならずアンチスパム、URL ブロッキング、キーワードブロッキング、ポリシー適用時間制御、管理・レポート機能なども提供します。ウイルスシグネチャーDBは、定評のある Kaspersky（カスペルスキー）を採用し、筐体単位での定額ライセンス提供とし、最短で1時間に1回の更新を行います。

日本に先駆けて販売を開始した北米では、カナダ最大手通信会社 Rogers グループをはじめ多くの企業、大学、公共機関等に採用されている実績があります。

- 市場環境および図研ネットウェイブの今後の販売戦略

国内では、インターネットアクセスの低価格・ブロードバンド化が進む一方で、携帯電話、PHS、公衆無線 LAN 等によるユビキタスアクセス環境も進化拡大しています。このような環境下では、より高速なゲートウェイ型コンテンツセキュリティ製品が求められると共に、ユビキタスとブロードバンドという異なる特性を持つネットワーク環境に柔軟に対応出来る製品が求められています。

統合先端サービスプラットフォーム(UESP)製品である『WirelessEdge BeSecure』は、ネットワークコンテンツのインタセプト、検査、認識、処理、操作を行うフレームワークを提供します。



図研ネットウェイブは、これまでの UTM (統合脅威管理) 製品販売で蓄積したノウハウを生かして、『WirelessEdge BeSecure』の拡販をミッドレンジからハイエンド市場中心に進めてまいります。また、『WirelessEdge BeSecure』は、UTM 製品の機能・性能を補完するものとして、幅広い既存の UTM 製品顧客ベースにも増設を推奨して行く方針です。

WEC と図研ネットウェイブは、メーカーと総代理店という枠組みを超え、パートナーとして協力し市場ニーズに適う製品、サービスの開発・提供に努めてまいります。

【WirelessEdge 製品ページ】

<http://www.znw.co.jp/product/wirelessEdge/index.html>



WirelessEdge Canada について

WirelessEdge Canada は、2002 年 12 月に技術コンサルティング会社として設立され、統合先端データサービス製品の開発ベンダーであり、ソリューションプロバイダーでもあります。テレコムオペレータ、ISP、エンタプライズがそれぞれのネットワークインフラを利用し、付加価値サービスをエンドユーザに提供できるプロダクト、技術、専門ノウハウの提供を行い、詳しい情報は <http://www.wirelessedge.ca> をご覧下さい。